

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：33920

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009 年度 ～ 2011 年度

課題番号：21590672

研究課題名（和文） 非正規雇用労働者における職場ストレス要因と心身の状態に関する研究

研究課題名（英文） Health conditions and psychosocial work environment in temporary workers

研究代表者

小林 章雄 (KOBAYASHI FUMIO)

愛知医科大学・医学部・教授

研究者番号：80135342

研究成果の概要（和文）：派遣切りで仕事を失った非正規雇用労働者は不安抑うつ症状が高く、心理面からのサポートが必要である。製造業における契約社員は正規社員に比べ「努力しても報われない」と感じる程度が強く、喫煙率、多量飲酒者の割合が高く、食習慣が不良であった。女性パートのうち、家計の主な稼ぎ手として働く群の喫煙率が高かった。また、この群では国民健康保険加入の割合が高かったが、国民健康保険加入者では、社会保険本人に比べ、一般健康診断やがん検診を受診しない傾向にあった。

研究成果の概要（英文）：The complaint of depression and anxiety was significantly higher among the temporary workers who lost their job. In the temporary workers in a machine manufacturing company, the Effort-Reward ratio was significantly high, the rate of heavy drinker was high, smoking rate was high, and dietary habit was poor. In the women who mainly support a family budget by their part-time job, smoking rate was strikingly high, and the rate of holding the national health insurance was high, while the members of this health insurance were unlikely to attend the annual health check-up or screening for cancer.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・衛生学

キーワード：非正規雇用労働 職場ストレス 健康

1. 研究開始当初の背景

非正規雇用労働者では、精神的健康度が低く (Artazcoz 2005)、精神疾患のリスクが高く (Virtanen 2005 による 27 の研究のレビュー)、また抗うつ薬の処方率が男性が多い (Virtanen 2008) こと、また喫煙やアルコ

ールに関連したがんによる死亡が多い (Kivimaki 2003) など、心身の健康水準が正規雇用労働者に比べて低いとの報告があり、非正規雇用労働に関連する要因が心身の不調を引き起こす可能性が示唆された。一方、

わが国においては、自殺者が平成10年度に3万人を超えた後、ほぼ横ばいで推移しているが、就労状況別にみると不安定な就労状況にあるもので自殺率が高い。また、わが国の労働者の労働時間は2極化しつつあるとされているが、このうち、労働時間がきわめて長く過重労働の状態に陥っているものの中に、非正規労働としての仕事を複数かけもちすることで生活をかろうじて維持している労働者が少なくない。こうしたことから、まだよく知られていない非正規雇用労働者における職場ストレス要因と心身の状態を明らかにすることは、自殺予防および過重労働対策という観点からも極めて重要であると考え研究を企画した。

2. 研究の目的

非正規労働者の身体的・精神的健康度、生活習慣や受診行動、職場のストレス要因およびそれら相互の関連について、正規雇用労働者と比較検討してその特徴を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

3つの異なる対象について、それぞれ横断的に検討した。

(1) 平成21年3月に開催された派遣村(愛知県岡崎市)に相談に訪れた117名を対象とし、来談時の総合受付にて健康調査票を配布し、相談終了時に回収した。調査票では、個人の特性と状況(年齢、性別、日系・非日系、生活状況など)、既往歴・現病歴・健康相談事項、K6調査票から構成した。K6調査票は対象者に合わせて日本語版、ポルトガル語版、スペイン語版を準備した。なお、比較対照として、愛知県下3つの保健所管内の6つの小規模事業場の勤労者を対象に行われたうつスクリーニング事業におけるK6調査票得点を参考値として用いた。

(2) 一事業所(製造業)の現場作業員で、非正規雇用労働者856名(平均年齢40.2歳)、

正規雇用労働者5143名(平均年齢36.2歳)を対象とし、性、年齢、生活習慣(飲酒、喫煙、睡眠、食習慣、運動習慣)、職場のストレス要因(仕事の要求度・コントロール・サポートモデルにもとづく要因、努力・報酬不均衡モデルにもとづく要因)、抑うつ度(CE S-D調査票)についての質問票調査および2010年の健診データ(身長、体重、血圧、血液検査(LDLコレステロール、HDLコレステロール、トリグリセライド、GOT、GPT、 γ -GTP、血糖値、HbA1c))について解析した。

(3) ①A県内の2つの事業所(販売、食堂、仕分け・配送、介護)の従業員(それぞれ861人、1471人)を対象として調査票を配布・回収して検討をおこなった(回収率はそれぞれ91.7%、86.8%)。調査票は、雇用形態、婚姻状況、年収、健康保険への加入状況、治療中の病気、健康診断(一般、およびがん検診)の受診状況、睡眠、運動、食事、飲酒、喫煙状況、労働時間、病休、職業性ストレス簡易調査票、ERI調査票とした。非正規雇用労働者のうち、女性パート労働者について雇用形態を、「家計の主な稼ぎ手として生活を維持するため」働く群(主な稼ぎ手群)、「家計の主な稼ぎ手ではないが、生活を維持するため」働く群(生活維持群)、「家計の主な稼ぎ手ではないが、家計の足しにするため」働く群(家計の足し群)の3つの類型に細分化した上で比較した。

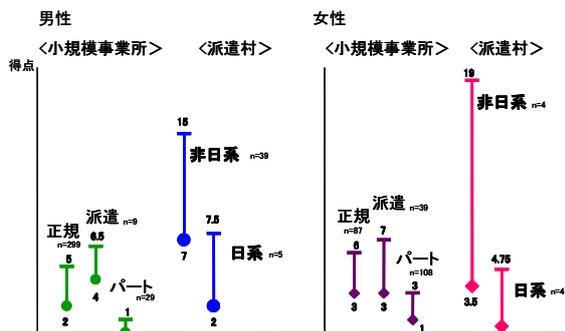
②対象者の中より、協力が得られた5名について、就労の状況、健康状況についてインタビュー調査を行った。

4. 研究成果

(1) 派遣村における健康調査票、K6調査票の回収数はそれぞれ76(回収率65.6%)、52(回収率44.4%)であった。相談者の生活背景をみると、日本人(非日系)の単身者の割合は74.6%であるのに対し、日系では、

17.6%にとどまり、日系の相談者の多くが家族等との共同生活を営んでいることを示した。K6 スコア（中央値、75 パーセンタイル値）を比較すると（図1）、男性では、日本人（非日系）の相談者の中央値は7、75 パーセンタイル値は15で、小規模事業場の正規雇用労働者（中央値2、75 パーセンタイル値5）より有意に高かった。しかし日系男性では中央値は2、75 パーセンタイル値は7.5で差がみられなかった。女性では、例数が少なく明確な結論は得られなかったが、日本人（非日系）の4人のうち1人は24点満点であった。日系では一般勤労者より得点が低い傾向を示した。以上より、派遣村での日本人（非日系）相談者は不安・抑うつ症状が一般勤労者より高く、これらの相談事業においては精神・心理面からのサポートを充実させる必要性が示された。

図1. K6 得点（中央値、75%パーセンタイル値）



(2) 非正規雇用労働者（契約社員）では、仕事の要求度—コントロールモデルにもとづく仕事の緊張度（仕事の負担得点/仕事のコントロール得点）は正規雇用労働者に比べて有意に低い（ $p < 0.01$ ）が、努力—報酬不均衡モデルにもとづく不均衡は非正規雇用労働者で有意に高かった（努力はしているが報われない、 $p < 0.01$ ）。CES-D得点には、2群間に有意な差は見られなかった。非正規雇用労働者で多量飲酒者（1日日本酒換算3合以上）の割合が正規雇用労働者に比べて高く（ $p < 0.01$ ）、喫煙率が高く（ $p < 0.01$ ）、食習慣が不良（ $p < 0.01$ ）であった。健診結果には両群間に差

はみられなかった。

(3) ①解析対象を女性の正社員（158人）、パート「主な稼ぎ手」群（130人）、パート「生活維持群」（386人）、パート「家計の足し」群（653人）とした。対象者の属性では、平均年齢は正社員（ 41.1 ± 10.6 ）がパートの3群（それぞれ 47.6 ± 10.8 、 48.6 ± 9.3 、 49.1 ± 8.6 ）に比べて有意に低く、教育年数は有意に高かった。離婚・死別の割合はパート「主な稼ぎ手」群で60.5%と有意に高かった。年収は、正社員、主な稼ぎ手群、生活維持群、家計の足し群の順となった。健康保険の加入状況では、社会保険本人の割合は正社員が最も高く（97.4%）、次いで主な稼ぎ手群、生活維持群、家計の足し群の順となった。逆に社会保険被扶養者の割合はパート家計の足し群が最も高く（70.7%）、次いで生活維持群、主な稼ぎ手群の順となった。国民健康保険の割合は主な稼ぎ手群が最も高く（30.2%）、家計の足し群、生活維持群、正社員の順となった。

喫煙習慣について、年齢、教育年数、雇用形態、事業場区分を独立変数として多重ロジスティック回帰分析を行ったところ、年齢、教育年数に加え、雇用形態が有意となり、正社員を1.0とした「パート主な稼ぎ手」群のオッズ比は3.30であった（表1）。

表1 喫煙のリスク要因とオッズ比

	オッズ比	オッズ比の95%信頼区間	
		下限	上限
年齢	0.937	0.918	0.957
教育年数	0.757	0.669	0.857
正社員	1.000		
パート	3.303	1.478	7.378
主な稼ぎ手			
パート	1.409	0.663	2.994
生活維持			
パート	1.084	0.521	2.254
家計の足し			

過去1年間において健康診断を受診しない要因について同様の検討を行ったところ、年齢（0.965、0.944~0.986）、教育年数（0.864

、0.769～0.970)に加えて、健康保険の加入状況が有意(p=0.024)となり、社会保険本人を1.0とした社会保険被扶養者のオッズ比は1.792(1.077～2.980)、国民健康保険加入者は2.035(1.059～3.910)、健康保険なしは5.359(1.367～21.002)であった。雇用形態や事業場は有意とはならなかった。40歳以上について、胃がん、大腸がん、肺がん、子宮がん、乳がんの検診を受診しない要因について同様の検討を行ったところ、健康保険加入状況で、社会保険被扶養者、国民健康保険加入者、健康保険なし群が、検診を受診しないオッズ比が1.0以上で、逆に事業場で介護に従事する群のオッズ比が1.0未満であった(例として表2)。

表2 大腸がん検診を受診しない要因

	オッズ比	オッズ比の95%信頼区間	
		下限	上限
年齢	.967	.945	.989
教育年数	.914	.846	.988
事業場区分・介護	.544	.319	.928
社会保険被扶養者	2.931	1.868	4.599
国民健康保険	4.268	2.581	7.059
健康保険なし	3.837	1.141	12.909

K6調査票による不安・抑うつ症状、および職業性ストレス簡易調査票による「疲労感」、「身体的愁訴」を指標として心身の自覚的健康状態について検討したところ、雇用形態による有意な差異はなかった。また、職業性ストレス簡易調査票、ERI調査票によって、職場のストレス要因と雇用形態の関連を検討したところ、いずれも有意な関連はみとめられず、むしろ事業場による差異が認められた。
②対象者の中より協力の得られた女性従業員5名(正社員2名、パート3名)について背景属性、就労状況、健康保険加入状況、健診受診状況、健康状況等についてインタビュー調査を行った。パート労働者の中でも、家庭状況等により就労の動機や生活状況は大きく異

なっていること、中でも生計を主として支えるために就労しているものでは、複数の職に就いて1日12時間以上の労働を休みなくおこなっており、不調時にも受診できないことや、がん検診等をほとんど受診していないなどの実情が明らかとなり、女性パート等の非正規労働者については、詳細に類型化を行った上で検討することの重要性が確認された。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

(1) 小林章雄、渡邊美寿津 失業者の心理と支援. 産業精神保健、査読あり、18(3):204-208, 2010

[学会発表](計2件)

(1) 小林章雄、柴田英治、渡邊美寿津、坪井宏仁、派遣村(愛知)相談者の不安・抑うつ症状. 平成21年度日本産業衛生学会東海地方会学会 平成21年11月14日 名古屋市立大学

(2) 渡邊美寿津、堀礼子、赤松康弘パートタイム労働者の心身の健康についてー働く動機にもとづくグループ細分化による検討ー. 平成23年度日本産業衛生学会東海地方会学会. 平成23年11月5日、藤田保健衛生大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 章雄 (Kobayashi Fumio)
愛知医科大学・医学部・教授
研究者番号: 80135342

(2) 研究分担者

堀 礼子 (Hori Reiko)
愛知医科大学・医学部・准教授
研究者番号: 80329812
渡邊美寿津 (Watanabe Misuzu)
愛知医科大学・医学部・准教授
研究者番号: 30298624
赤松康弘 (Akamatsu Yasuhiro)
愛知医科大学・医学部・助教
研究者番号: 70257658